

令和8（2026）年3月
金城大学附属西南幼稚園
園長 太田 淳子

令和7年度 金城大学附属西南幼稚園 学校評価報告書

<はじめに>

幼稚園は、教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。（学校教育法、学校教育法施行規則）

幼稚園における学校評価は、以下の3つを目的として実施するものとされている。（文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン [平成23年改訂]』）

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

評価の形態には、以下の3つがある。

- ① 自己評価：各学校の教育活動などの状況について自ら行う評価（法令上、実施及び公表の義務がある。）
- ② 学校関係者評価：保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について行う評価（法令上、実施及び公表の努力義務がある。）
- ③ 第三者評価：学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況を踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について専門的視点から行う評価（法令上の義務付けはない。）

本園では「自己評価」及び「学校関係者評価」を実施した。本報告書は、この2つの評価結果と今後の改善方策を取りまとめたものである。

<実施概要>

● 自己評価

(1) 教育の質・教育・保護者理解について

教育方針として「あそびの中に学びがある～あそびが充実し、学びが深まる教育～」、また、令和7年度の重点目標として、令和6年度に引き続き「混合クラスの中で異年齢の子ども達が、年齢の枠を超えて学び合い、成長していく」の実践を掲げ、到達目標も「好きなあそびを見つけ『安心』『熱中』のもとあそびを展開する」とした。評価項目は「あそびの中で十分に体を動かす楽しさを味わう」、「教師や友達と一緒にあそびを進めていく楽しさを味わう」、「身近な物や遊具・自然に興味を持ち、考え・試し・工夫してあそぶ」、「教師や友達と会話を楽しみ、相手に伝えようと工夫する」、「好きなあそびを十分楽しみ、のびのびと表現する楽しさを味わう」の5項目とした。評価指標としては「努力指標」、「成果指標」、「保護者満足度指標」の3指標を設定し、自己評価を行った。

評価の流れは、毎月の月案（ひと月の教育計画）、毎週の週案（1週間の教育計画）を作成し、これらの結果の振り返りを通して自己評価を繰り返し、さらに、2月には各クラス担任が「自己評価表」及び「自己評価シート」を作成し、保護者を対象として実施したアンケート調査の結果も踏まえて自己評価結果を取りまとめた。

(2) 保健・安全について

防災マニュアルや防災備品・備蓄の見直しや、津波を想定した大学・小学校4階への避難訓練や引き渡し訓練など、安全面の見直しや実施を重点的に行った。評価指標は計画どおり実施できたかどうかとし、自己評価を行った。

● 学校関係者評価

評価員は、PTA会長を含む保護者2人、隣接する松陽小学校の校長、金城大学短期大学部教員の合計4人に依頼した。例年同様、評価員には書面にて自己評価結果を報告するとともに、評価表への記載を依頼した。

<結果>

● 自己評価結果

① 教育の質・教育・保護者理解についての自己評価

- 教育方針：あそびの中に学びがある ～あそびが充実し、学びが深まる教育～
- 教育目標：一人ひとりの個性をのびしながら、人間形成の基礎を養い、自主的にあそべる子どもを目指す
- 令和7年度の重点目標：混合クラスの中で異年齢の子ども達が、年齢の枠を超えて学び合い、成長していく
- 具体的活動：
 - * あそびの中で十分に体を動かす楽しさを味わう
 - * 教師や友達と一緒にあそびを進めていく楽しさを味わう
 - * 身近な物や遊具・自然に興味を持ち、考え・試し・工夫してあそぶ
 - * 教師や友達と会話を楽しみ、相手に伝えようと工夫する
 - * 好きなあそびを十分楽しみ、のびのびと表現する楽しさを味わう

評価指標	実現状況の達成度判断基準	自己評価(※)
<p>【努力指標】</p> <p>重点目標に到達するため、どのような経験や環境が必要かを模索し、子どもたちの主体性を生かした教育を行うために、満3歳児から5歳児までの混合クラスとして保育を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>安心して園生活を送る中で、友だちと関わることの楽しさや、遊びの中で充実感ややり遂げようとする姿を育てる。</p>	<p>A：十分達成されている</p> <p>B：達成されている</p> <p>C：あまり達成されていない</p> <p>D：取り組みが不十分である</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>A評価：2人</p> <p>B評価：1人</p>
<p>【成果指標】</p> <p>好きなことを見つけ、「安心」、「熱中」のもと、あそびを展開する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したり、充実感をもってやり遂げるようになる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>主体的・対話的深い学び</p>	<p>A：できている</p> <p>B：だいたいできている</p> <p>C：あまりできていない</p> <p>D：できていない</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>B評価：3人</p>

<p>【満足度指標】（保護者）</p> <p>園生活を通して、わが子の成長を感じ、満足しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園での様子等を伝える（送迎時または電話） ・必要な時は、話し合いの場を設ける。 ・クラス日より（月1回）全クラスの記事を記載。 ・クラス懇談会（年1回）、個人懇談会（年2回） ・保護者アンケートの実施 	<p>A：十分満足している</p> <p>B：満足している</p> <p>C：あまり満足していない</p> <p>D：満足していない</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>B評価：3人</p>
--	--	---

（※）自己評価の結果は、各クラス担任（3人）の評価から総合的に判定した。

② 各クラス担任等による取組状況・自己評価

クラス等	取り組み状況・自己評価等	課題・改善策等
<p>満3歳児 ・ 3歳児</p>	<p>今年度は生活の部分にゆとりを持ち、教師も様子を見て援助していけるように生活の場を「満3歳児・3歳児」として、年上児とは別々にした。新しいクラスで友だちと遊ぶ事に楽しさを感じている子もいたが、今まで一緒に生活をしてきた年上児と別のクラスとなった事で戸惑いを感じて過ごす様子が見られた。</p> <p>しかし、無理に年上児の中に入れるような声掛けはせず、安心出来る居場所作りに力を入れた。</p> <p>そのうち、製作遊びの好きな子は、別の部屋にある製作遊びのコーナーで年上児の様子を見て真似て作ろうとしたり、手伝って貰ったりして楽しむ姿が見られるようになった。年上児が手伝ってくれる事に嬉しさを感じ、出来上がった物を教師にもよく見せてくれた。</p>	<p>今年度は年少児と年上児との生活の場を別々にした事で朝や帰りの支度、排泄、衣服の着脱などの身の回りの事を年少児のペースや個人の成長に合わせてじっくりと取り組む事ができ、教師にとって子どもたちとゆとりを持って関わる事が出来たと思う。</p> <p>遊びの面では1年を通して徐々に年上児との関わりが深まっていくのを感じ、一緒に過ごす事に嬉しさや安心感を感じているようだった。</p> <p>ただ生活の面で昨年よりも著しく年上児との関わりが少なかったように感じたため、3学期は給食を食べる環境を見直し、みんなで集まり一緒に食べる機会を増やしてみようとした。今はまだ始めたばかりであるので、次年度も今年度の良かったところや反省点を活かしながら</p>

	<p>また、教師間で話し合い、全クラスがホールに集まり、みんなでおいごっこする時間を何度か設けたところ、年上児も年少児にルールを優しく教え、速さを合わせて一緒に走ってくれる姿があり、子どもたちも安心して一緒に楽しめるようになった。年度途中からではあるが、年上児との関わりの中で混合で遊ぶ楽しさや安心感を感じる事が出来たのではないかと思う。</p>	<p>ら混合保育を意識し、子どもたちの関わりをより深めていけたらと思う。</p>
<p>4 歳児</p>	<p>昨年度の反省のもとに、満3歳児と3歳児、4歳児と5歳児がそれぞれ生活の場を共にした。</p> <p>進級当初は、新しい環境に戸惑う姿も見られたが、前年度に全年齢で混合保育を行っていたこともあり、教師自身が一人ひとりの子どもの姿や育ちをイメージしながら関わる事ができた。また職員同士の連携も取りやすく、日々の関わりを通して信頼関係も比較的スムーズに築かれ、子ども達は安心して過ごせるようになった。その結果、年長児との生活で日々の関わりや遊びの姿に触れ、「自分もやってみたい」と意欲的に取り組む姿が多くみられた。年長児の遊びを真似しながら、少しずつ自分なりに工夫し、その遊びを広げていく姿も増え、日々の成長が感じられた。</p> <p>年少児との関わりについては、遊びにいく姿や、”みんなの遊びの部屋”で一緒に製作遊びやままごとを楽しむ姿が見られた。また、自分た</p>	<p>今年度は、前年度の混合保育の経験を生かし、進級当初から職員間の連携もスムーズにでき、一人ひとりの姿に寄り添って関わり、支援することができたように思う。年長児の姿に刺激を受け、「やってみたい」という意欲をもって遊びに関わろうとする姿が多くみられ、遊びを自分たちなりに工夫し広げていく姿につながった。また育ちや経験の差も大きく、個々のペースを大切にしながら、より安心して関われる環境や援助が必要であると感じている。また、年少児との関わりについては、生活の場が同じ年中児と年長児との関係に意識が向きやすく、混合保育としての年少児とのつながりを深める機会を、より意図的に設けていくことが今後の課題である。</p> <p>これからも一人ひとりの育ちや思いを丁寧に受け止めながら、それぞれが安心して夢中になれる遊びを大切にし、友だち、仲間としての一体感を育み、一人ひとりが意欲的</p>

	<p>ちの生活が充実し自信を持って過ごすようになると、自然に年下の友だちに優しく関わる姿に変化してきた。今後、さらに工夫してより意識的に年少児とのつながりを深めていくことが大切だと感じている。</p> <p>また、日々の生活や活動で育ってきたことを、年中組のクラスとしての一体感や達成感を感じられる活動も積み重ねていきたい。</p>	<p>に園生活を送れるよう日々の教育・保育に取り組んでいきたい。</p>
<p>5 歳児</p>	<p>昨年の反省を踏まえ、満3歳児・3歳児と4・5歳児の生活の場を分けたことで、各学年の育ちやねらいに合わせた動きがしやすくなった。また、自由度を重視しすぎたために子ども達まかせになってしまった反省の元「より各学年に合った保育を考える」「教師のねらいや願いを明確に持つ」ことを大切にしたい。</p> <p>今年度の年長児は5名と少なく、性格的にも優しく控えめな子が多い。そのため、最初は全園児の先頭に立つ姿が見られなかった。一方で深く探究する事が得意なクラスなので、発見した事を年下児にも知らせる場を作ったところ、喜ぶ年下児を見て嬉しそうな姿が増え、年長の自覚や意欲が出てきた。</p> <p>また、年長クラスの大事な活動に“集団ゲーム”があり、運動的な遊びもルールに縛られることもあまり好まないめろん組には大きな課題であった。しかし、5人という少人数では成り立たないため、年中のばなな組が加わり、負ける経験や意</p>	<p>年長5歳児としての目標を達成するには、やはりある程度のまとまった人数が必要である。そのため少人数のめろん組にとっては、今年1年ばなな組と共に活動できたことはとても良かったと思う。結果的に何かとばなな組に引き立ててもらった事が多いめろん組ではあったが、教師間で学年のねらいを持ち常に配慮する事で、年中児には年上児への憧れを、年長児には年下児への誇らしさを大事に残しながら過ごせたと思う。ただ、4,5歳児の関係性が深かっただけに、年少児いちご組との繋がりが薄まってしまった事が課題だったように思う。人数の関係・配慮が必要な園児の割合などで、どのような組み合わせで異年齢の関わりを作れば良いかは毎年変わってくる。今年の方法が来年度にも当てはまるかは分からないため、反省点を生かしながらもまたその年度に合った方法を考えていく必要があると思う。</p>

	<p>見の食い違いなど負荷のかかる出来事や、幼いばなな組が無邪気に強気で遊びに向かう姿を見て、刺激を受け少しずつ気持ちを開放する心地良さを味わうようになった。</p> <p>さらに2学期の運動会で鼓隊演奏など年長としての役目や頑張りを経験したことが大きな自信につながり、次第に異年齢の関わりの中でリーダーシップが取れるようになった。</p>	
<p>総括</p>	<p>昨年度の混合クラスにおける反省のもと、今年度は生活環境を「満3歳児・3歳」と「4歳児・5歳児」の2つに分けたことで、概ね重点目標に到達することはできたが、満3歳児から5歳児までの全クラスとして見た時には課題が残る</p> <p>「満3歳児・3歳児」は、生活の場を年上児と分けたことで安定した居場所ができると、製作遊びのコーナーやホールで年上児と関わるようになり、年度途中からではあるが、年上児と混合で遊ぶ楽しさや安心感を感じる事が出来た。</p> <p>「4歳児・5歳児」は、子どもの主体性を大切にしながら、その中で教師の仕掛けがあり、さらなる経験の深まりへと繋がり、互いに育ち合う姿が多く見られた。それに対し、「満3歳児・3歳児」では、環境の工夫や教師の仕掛けにおいて課題が残る。</p>	<p>R7年度の重点目標はR6年度に引き続き、「混合クラスの中で異年齢の子ども達が年齢の枠を超えて学び合い、成長していく」であり、具体的な到達目標も昨年に引き続き、「好きなあそびを見つけ、『安心』『熱中』のもと、あそびを展開する」であった。</p> <p>混合クラスについては、昨年度は「異年齢での関わり」を優先すれば、「各学年の育ち」が弱くなり、今年度は「各クラスの育ち」を優先すれば、「異年齢での関わり」が弱くなる」という状況であった。そこで、R8年度は、各クラスの数や配慮の必要な園児の割合、場面やあそびの活動等により、どのような組み合わせで異年齢の関わりを設定すれば良いか、臨機応変に考えていくことが大切である。</p> <p>その上で、具体的な目標の「安心」「熱中」のもとで、あそびを展開できるようにしなければならない。</p>

保護者アンケート結果（令和8年2月13日から2月18日実施）

Q 1 本園の教育方針「あそびの中に学びがある」。子どもたちは幼稚園でたくさん遊び、学んでいると感じますか。（回答者 全園児26名中21名回答）

「あてはまる」	81%
「だいたいあてはまる」	0%
「あまりあてはまらない」	0%
「あてはまらない」	0%
「未回答」	19%

Q 2 西南幼稚園は、子どもの興味・関心から生まれることを大切にしてくれていると感じますか。

「あてはまる」	77%
「だいたいあてはまる」	4%
「あまりあてはまらない」	0%
「あてはまらない」	0%
「未回答」	19%

Q 3 友だちとかかわることの楽しさが育っていると感じますか。（回答者 23人）

「あてはまる」	73%
「だいたいあてはまる」	8%
「あまりあてはまらない」	0%
「あてはまらない」	0%
「未回答」	19%

Q 4 混合クラスになり、お子様の成長を感じますか。また、混合クラスの良さを感じますか。（回答者 23人）

「あてはまる」	58%
「だいたいあてはまる」	23%
「あまりあてはまらない」	0%
「あてはまらない」	0%
「未回答」	19%

Q 5 運動会や発表会など行事を通して混合クラスの良さを感じますか。また、お子様の成長を感じますか。（回答者 23人）

「あてはまる」	58%
---------	-----

「だいたいあてはまる」	19%
「あまりあてはまらない」	0%
「あてはまらない」	4%
「未回答」	19%

保護者アンケートの結果は、本園の教育成果については概ね保護者に評価していただいていると考えられる。ただ、未回答の方がいたことに対しては、できるだけ多くの保護者のご意見を参考にしたいので、声かけ等何らかの働きかけを考える必要がある。

混合クラスについては、昨年度の保護者アンケートで少数ではあるがマイナス評価をいただいたが、今年度においてそれはなかった。しかし、「運動会や発表会などの行事に限ってのマイナス評価が若干あった。次年度3年目となる混合保育について、「どのような形の混合クラスが良いのか。」「環境の工夫」「教師のしかけや働きかけ」等、引き続き、検討して、改善していく必要がある。

また、保護者に対して、アンケートの結果を踏まえて、混合クラスについての改善等の取り組みの詳細をもっと伝えていかなければならない。その発信方法についても、改善が必要である。

④ 保健・安全についての自己評価

○ 評価指標：保健・安全に関する事項について、計画通り実施できたか。

- A：十分達成されている
- B：達成されている
- C：あまり達成されていない
- D：取組が不十分である

○ 自己評価：A 年度当初に予定した学校保健安全計画に沿って、環境・衛生管理を全て行うことができた。

● 学校関係者評価結果

評 価 項 目	評 価
【教師の質】 「教師の関わり方」、「子どもを読み取る力」を更に高める。 1. 保育内容、ケース会議、カンファレンスを丁寧に行い、教師間の共通理解・幼児理解を深める。 2. 金城大学、金城大学短期大学部講師による園内研修の開催。 3. 園外研修に参加し、教師の質の向上を図る。	A：4人 B：0人 C：0人

<p>【教育】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和7年度も混合教育を実施するうえで、各学年の育ちも大切にしながら、異年齢での関わり合いを高めていくことに重点を置く。 2. 遊びを深めていけるようなコーナーを充実し、異年齢の子ども達が混ざり合い、刺激し合える環境を構成し、空間作りを考えていく。 3. 多様な考えを持ち、その考えや思いをどの教師にも伝えることができるよう、安心して日々を過ごせるよう配慮をしていく。 4. 大きな行事（運動会、発表会など）の見直しを行う。遊びの流れや繋がりなどを見極め、年齢にとらわれず組み込んでいく。 5. 混合保育を行う中でも、各年齢の育ちを大切にしていくために、計画的に各年齢の活動を行う。取り入れる。 	<p>A：3人 B：1人 C：0人</p>
<p>【保護者との連携】</p> <p>幼稚園教育の理解・教師の保護者理解・保護者支援・幼児理解・家庭環境の深まりを図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個の姿やクラスの様子を伝える <ul style="list-style-type: none"> ・教師の思いや願いを伝える。 ・結果だけでなく、そのプロセスを伝える。 ・どういった学びや成長に繋がるのか伝える。 <p>〔クラス懇談会（年1回）、個人懇談会（年2回）、クラスだより（全学年のおたよりを載せる）、写真の配信、インスタグラム〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 場合により、電話で伝えたり、直接話し合う場を設ける。 3. 行事を通して園での様子を見ていただく 4. 保護者アンケートの実施 	<p>A：2人 B：2人</p>
<p>【保健・安全】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水質、ダニ・アレルゲン、換気・温度・相対湿度、気流・浮遊粉塵、照度検査 2. 園庭遊具の安全点検 3. プール衛生点検 4. 防災関連見直し（防災マニュアル、防災用品・備蓄） 5. 防災訓練の実施及び見直し（火災、地震を想定した避難訓練・津波を想定した大学・小学校4階への避難訓練・大学4階で 	<p>A：4人 B：0人</p>

【感想と所見】

「教師の質」について

- ・園内研修やその他の研修にも参加されている様子が窺え、工夫している様子もよくわかった。
- ・担任の先生の自己評価が R6 と比較して向上していた。これは園長のリーダーシップのもと、先生方が教育目標の達成を目指し、心を一つにしてチームとして取り組んだ結果、子どもの成長があり、先生方自身に達成感が得られた証拠である。研修にも沢山参加され、しっかりと学んでいることも評価できる。園長の人材育成のお力も大きく影響しているであろう。
- ・日々の先生方の関わりが温かく、担任の先生はもちろん、どの先生も話しやすい。相談したいと思える園の雰囲気ですばらしいと思う。

「教育」について

- ・満3歳児と3歳児にとって生活の場を年上児と分けてもらえたことで、先生方にとっても丁寧に寄り添ってもらえて信頼感や園への安心感が深まった。その上で全体を見た時に、混合で活動する内容や環境の「バランスや線引き、タイミング」など、引き続きいろいろな方法を試していただけると嬉しい。
- ・自己評価シートを拝見すると、R7重点目標に基づく取組について成果と課題が書かれているが、自己評価表は具体的な達成目標について評価した方がよいのではないか。貴園の教育方針や教育目標等を達成するために具体的な目標が作られているのだから、具体的な達成目標に対して成果や課題を明確にし、重点目標を評価すべき。
- ・自己評価シートの「安心」というワードは、先生方の教育力で子どもが育っていると感じる。一方「熱中」(→主体性に通じる)に関する内容はもっと増やしてほしい。
- ・昨年度の課題を受けて、R7年度は異年齢交流において意図的に生活空間を小さいこと大きい子に分けたことが、効果的だったことがわかった。今後も場面や活動に応じて、全員の交流や年齢によるグループ交流を工夫されたら良いと思う。

「保護者理解（連携）」について

- ・個の姿やクラスの様子、教師の思いや願いを伝える機会自体が少なく、どうしても総括的な内容となってしまっており、日常の中での機微や変化を知ることが難しい。働き方改革もあり、かつてのようなお便り帳のやりとりや園だよりの仔細を復活させるのは難しいかもしれないが、代替策や案を検討すべきではないか。
- ・しっかり対応しているのは知っている。しかし、この項目に関する資料等が少なく評価がしにくい。保護者のアンケートは、運動会と西南幼稚園の教育や子どもに関

わるアンケート内容だけで、保護者との連携に関するアンケートではないので、それを評価できる資料があるとよい。

「保健・安全」について

- ・しっかり管理されていると思った。
- ・保護者アンケートの結果から、保護者から大変信頼を得ていることがわかる。また、保護者への情報共有や保護者との相談体制など、きめ細やかに丁寧に行っていることがわかる。

評価委員4人からの評価は、【教師の質】と【保健・安全】の評価項目で全員A評価、【教育】の評価項目ではA評価が3、B評価が1、【保護者理解】の評価項目ではA評価とB評価共に2であり、全体的に高評価であった。

次に、「感想と所見」の欄からは、各評価項目について多くの助言をいただいた。

「教育」の混合クラスの取り組みについては、「生活の場を年下児と年上児と分けたことはよかったが、混合で活動する内容や、環境のバランスや線引き、タイミングを試してほしい」「小さい子と大きい子に分けたことは効果的だったが、場面や活動に応じて全員の交流や年齢によるグループ交流の工夫も必要。」と具体的なアドバイスをいただいた。次年度3年目となる混合保育の取組において、改善していく上での参考にしたい。また、自己評価の仕方自体についてのアドバイスもあったので、次回の自己評価をする際、しっかりと生かしたいと考えている。

「保護者理解（連携）」については、「働き方改革もあり、お便り帳のやりとりや園だよりの仔細を復活させるのは難しいかもしれないが、代替策や案を検討すべき。」という要望があった。謙虚に受け止めて、保護者への情報発信の次期や方法等を工夫したい。さらに、保護者との連携ができていくかについては、アンケート項目を次年度増やし、対応したいと考えている。

<おわりに>

今年度の重点目標を「混合保育の中で異年齢の子ども達が、異年齢の枠を超えて学び合い、成長していく」として、1年間取り組んできました。まず、春休み中に行ったことは、これまでの各クラスの用途を、早期保育・預かりの部屋、主に生活スペースとなる部屋、主に遊びのスペースとなる部屋、フリースペースとなる部屋として大幅に見直したことです。異年齢の子ども達が、毎日の生活を安心して過ごすことができるためです。また、教師一人ひとりが意識改革を行い、教師間の連携を深め、互いに共通理解を持てるように、今まで以上にミーティングの機会を増やしました。

その結果、年齢の枠を超えて、仲良しの相手と夢中になれる遊びを見つけ、継続させて

いく姿が見られるようになりました。そして、様々な活動の場面で、年長児は憧れの存在となり、年中児、年少児にも、自然と「真似る・手伝う・手助けする」などの姿や、「心・知恵・知識」など大切なことを生活や遊びを通して自然に身につけていく姿が、見られるようになりました。また、教師も一歩引いて見守り、寄り添うことで、子ども達に互いの関わりや、遊びの広がり、深まりが見られるようになりました。そして、それぞれに多様な考えがあることを知り、認め、許容できるようになり、教師も成長することができました。

一方、課題としては、「混合クラスとしての経験や育ち」と「各学年の経験や育ち」のバランスが取りにくく、特に、「各学年の経験や育ち」については、もっと学年で過ごす場面設定の必要性を感じているところです。同時に、年齢の枠を超えて学び合い、成長していくためには、「混合クラスとしての経験や育ち」を高める環境作りにも工夫を凝らして取り組んでいかなくてはなりません。また、支援を必要とする子どもも多く、教師の手が足りないと感じる時もありますが、安全面の配慮や教員の配置はしっかり行いつつも、互いに育ち合う力を信じて大切に育てていきたいと思えます。さらに、今年度は、異年齢の枠を超えて学び成長して行けるように、大きな行事の運動会や発表会を見直しているところですが、保護者アンケートでは、混合クラスの良さを感じられないという回答も一部ありました。保護者の皆様のご意見を謙虚に受け止め、今後、ご理解が得られるように、混合保育の良さを生かし、子ども達の主体性がもっと発揮できるような教育に取り組んでいきたいと思えます。

さて、昨年度末にこども家庭庁より、「はじめの100か月の育ちビジョン」が、発表されました。「はじめの100か月」とは、母親の妊娠期から幼保小接続の重要な時期（いわゆる5歳児～小1）までです。幼児期までこそ、生涯にわたるウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に幸せな状態）の向上に最重要であり、そのために、アタッチメント（愛着）と豊かな「遊びと体験」が不可欠です。西南幼稚園の教育方針は「あそびの中に学びがある」ですので、混合保育の中で、より一層主体的に遊びを広げていけるように、職員一同、多様な意見を尊重しつつ、心を一つにして頑張っていきたいと思えます。

最後になりますが、西南幼稚園の様々な事業や取組に対し、ご支援ご協力をしていただいた保護者の皆様、松陽小学校を始め地域の関係者の皆様、そして、金城大学や短大の関係の皆様に心より感謝申し上げます。

園長 太田 淳子